



資料 2 - 1

# 東京2020 NIPPONフェスティバルの検討状況について

# 1. フェスティバル検討の経緯

時期	会議	検討内容
2017年 5月～6月	文化・教育委員ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ フェスティバルの目指す方向性（コンセプト等）</li><li>➤ 具体的な企画アイデア</li></ul>
2017年 7月	第5回文化・教育委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ フェスティバルの枠組み（事業体系等）について議論</li><li>➤ フェスティバル検討体制を決定</li></ul>
2017年 10月	第1回フェスティバル検討WG	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 主催プログラムの公募状況を議論</li><li>➤ フェスティバルの名称決定（記者会見）</li><li>➤ マークの検討開始</li></ul>
2018年 3月	第2回フェスティバル検討WG	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 主催プログラムの企画内容について意見交換</li><li>➤ マーク案・コンセプト案について意見交換</li></ul>
2018年 7月	第6回文化・教育委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ マーク・コンセプトの発表</li><li>➤ 主催プログラムの検討状況報告</li><li>➤ 全国展開の方向性</li></ul>

# 2. 東京2020 NIPPONフェスティバルについて

2017年

2020年4月頃

7月24日～

## 東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる  
大会に向けた機運醸成



## 東京2020 NIPPONフェスティバルの展開

### 参画プログラムの展開



- ・大会の盛り上げを最大化
- ・様々なステークホルダーの参画
- ・国内外への発信

### 聖火リレー

東京2020大会  
開会式  
閉会式

### 3. フェスティバルの大きな方向性

#### ～文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック～

- **東京・日本へ世界からの注目が集まるこの時期に、東京2020大会の公式文化プログラムとして、我が国の誇る文化を国内外に強く発信します**
- **2回目の夏季パラリンピックを世界で初めて開催する都市として、大会後の共生社会の実現に向けて、多様な人々の参加や交流を創出します**
- **聖火リレーを契機に、文化・芸術活動を通じてオリンピック・パラリンピックに参加できる機会をつくり、大会に向けた機運を高めます**

## 4. フェスティバルのコンセプト

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、  
全国でくり広げられる文化の祭典、それが東京2020 NIPPONフェスティバルです。

日本にあらゆる国の人が集う本大会に先駆けて、  
様々な人と文化が交流する場となるはずです。

地方と都市。日本と世界。

あらゆる境界を超え、ひとつになるその時。

きっと、かつてない文化が生まれるでしょう。

きっと、多様性の力と素晴らしさを実感するでしょう。

きっと、新たな文化と感動が未来につながってゆくでしょう。

その主役は、私たちひとりひとり。

そして舞台は、この国のあらゆるまちとまち。

日本各地の熱気と多様性の融合から、すべては始まります。

東京2020 NIPPONフェスティバル。それは、  
この国の新たな可能性を開くフェスティバルです。

## 5. フェスティバルのマーク



東京2020  
NIPPON  
フェスティバル

- ▶フェスティバルの象徴となり、  
全国へ拡がりのあるマーク
- ▶大会エンブレムの制作者でもある  
野老朝雄氏が制作
- ▶大会エンブレムと同じ3種類の四角形を、  
同じ数組み合わせたマークが描くのは  
「Harmonized Checker= 調和した市松」
- ▶多様性の調和により可能性や希望が広がり、  
東京2020 NIPPONフェスティバルが  
イノベーティブでアクティブな新しい輝き  
を起こしていくことが、デザインに込めら  
れている

## 6. 東京2020 主催プログラム検討状況

東京2020においても、フェスティバルの盛り上がりが全国に波及するよう、東京を中心に大規模な文化プログラムを計画しています。

時期	テーマ (位置づけ)	概要
2020年4月頃 (キックオフ)	大会に向けた 祝祭感	東西を代表する無形文化遺産・舞台芸術の融合による世界初の舞台を2020年の東京で実現
2020年7月頃 (オリンピック直前)	参加と交流	日本文化を通じて様々な人々が交流する場・イベントを創出。世界の心を一つにするフィナーレ
2020年8月頃 (パラリンピック直前)	共生社会の実現	障がい者やLGBTの人々を含めた多様な個性を持つ人々が参画し、街中で様々なアートやパフォーマンス活動などを展開
2020年5月～7月頃	東北復興	東北各県と連携し、東北各地・東京を舞台とした文化プログラムを展開。国内外へ東北の現在の姿を発信

## 7. フェスティバルの事業体系

### 主催プログラム

東京2020が主催する4つのプログラム

- ① フェスティバルキックオフ (2020年4月頃)
- ② 大会直前 ( “ 7月頃)
- ③ 大会移行期間 ( “ 8月頃)
- ④ 復興 ( “ 5~7月頃)

### 共催等による プログラム

大会を象徴するプログラム等を国、地方自治体と連携し実施

▶全国自治体へ呼びかけを実施